

◆teku-teku共同企画2017★前川國男展+小金井企画（活動記録+評価結果）◆

企 画◆江戸東京たてもの園「ル・コルビュジェと前川國男展」と小金井のまちづくり

日 時◆2017年8月6日（日）10:00～17:00

コース◆<午前部>東小金井駅周辺（エキソト施設、シェアサイクルsuicle等）～スタジオジブリ界限～
小金井公園～江戸東京たてもの園<自由見学・昼食>

◆<午後部>江戸東京たてもの園「世界遺産登録記念ル・コルビュジェと前川國男」<特別展見学>
～前川國男自邸～武蔵小金井駅南口再開発～高架下利用NONOWAプロジェクト（小金井市エリア）
～同（武蔵野市エリア）～武蔵野プレイス （移動手段は、suicleまたは電車・バス）

参加者■◎志岐祐一、井手幸人*、大竹 亮、大西春樹、小川美由紀*、栗原 徹、重永真理子、清水俊哉、
中原宏達、横田宜明（計10名、*午後部のみ参加、◎コーディネーター）

企画主旨■

世界遺産登録を記念して江戸東京たてもの園で開催されている「ル・コルビュジェと前川國男展」を訪れ、園内の前川國男自邸を見学します。また、中央線鉄道高架事業を契機とした小金井のまちづくりも合わせて体験します。40年近くかかってようやく実現した武蔵小金井駅南口再開発（UR施行）、エキソトに展開する東小金井駅周辺開発事業、そして建築学会賞を受賞した全く新しいタイプの公共施設「武蔵野プレイス」へ足を延ばします。たてもの園では、企画にかかわった志岐さんに展示をご案内いただく予定です。夏休みの「おとなの自由見学」はいかがでしょう。

<参加者の意見・評価>

（注）評価は、A:非常に良い B:良い C:普通 D:良くない の4段階。
コメントは、評価の理由、感じたこと、考えたことなど。

1-1 ◆江戸東京たてもの園（全体）

評価:4.00 内訳:AAAABBBB-

評価A●一般に開放されているにも関わらず、各建物が非常に良い状態で保存されており園内もきれいで素晴らしい。一か所であれだけの体験ができるのは非常に貴重な施設なのでぜひまた訪れたい。

評価A●建物のメンテナンスが良好でした。また、建物を単に展示しているだけではなく、熱心にイベントを企画していることが判りました。小金井公園も含めて、猛暑に関わらず人々が集まっていたことから、市民に親しまれている様子を受け取りました。

評価A●下町ゾーンは通りに商店が並び路地や銭湯もあるし、邸宅群は山の手風の住宅地に整然と建つなど、街並みも考えられていることで、個々の建物の意味合いにリアリティが出ている点に感心しました。本郷館や大塚女子アパートも移築したかったですね！

評価A●江戸・東京の有名な建築物が凝縮されていてまたゆっくり来たいと思いました。

評価B●単に建築物を保存するだけではなく、建築群として下町の雰囲気再現するなど、なかなか工夫されていて面白い。

評価B●豪邸や著名作品だけでなく、普通にあつたいろいろな建物たちが残されているのがいい。

評価B●特徴ある建物を見てまわることのできる施設として貴重だと思います。「使われている建物」が少ないのが残念。



見渡す限りの広大な緑地が広がる小金井公園



江戸東京たてもの園の下町のまちなみゾーン

1-2 ◆特別展「ル・コルビュジェと前川國男」

評価:4.56 内訳:AAAAAABB

評価A ●コルビュジェと前川國男に焦点を当てつつ、さらに多くの建築家との関係性を解き明かすような展示であった。当然だが、図面と模型と写真が豊富で迫力があつた。

評価A ●貴重な資料や模型を生で見ることができて興奮した。コルビュジェのモデュロールを原寸大で初めて見て、書籍等からは分からない説得力のようなものを感じた。展示内容の密度も高く大満足だった。

評価A ●コルビュジェが切り開いたものを前川が日本に実現しようとする過程が良くわかった。紹介する作品の点数を絞り込んで、模型や写真でその意味を丁寧に伝えようとする展示方針を評価したい。

評価A ●模型の展示が圧巻。

評価A ●企画者の立場（志岐さん）から詳細な解説をいただき、見学に奥行きが出ました。

評価A ●志岐さんによる詳しい解説もあったので、とても興味深かったです。

評価A ●前川國男という果てしない存在が、手の届かない先にあることがわかった。

評価B ●ル・コルビュジェと付いているが、やはり前川國男展なのだと思う。作品としては美術館なども良いが、晴海高層アパートは傑作だったので、再開発で無くなったのが残念。

評価B ●内容盛りだくさん。建築界ではあまり話題に上ってないようですが、外人の来場者も多数。

1-3 ◆前川國男自邸

評価:5.00 内訳:AAAAAAA-

評価A ●シンプルで明快な空間構成。吹き抜けのある居間の空間はとても居心地が良かった。

評価A ●シンプルな構成、なのに生活の豊かな空間が広がっている。近代建築の巨匠の自邸だけど、懐かしいディテールが随所に見られ奥が深い。和風の架構に見えて小屋組の一部にトラスを使うなど手ごわい。

評価A ●さまざまな工夫がされていて、外部空間との関係性もオープンで、素敵な建築物だと思いました。

評価A ●素敵な住宅でした。開放性が高く内部空間が広いのに、どこにいても居心地の良さを感じました。

評価A ●開放感、木の材質感、外部の緑との一体性など、「前川國男」という存在に圧倒されました。暑い日でしたが、内部に入るとくつろいだ気持ちになり快適。

評価A ●戦時下当時の限られた物資、面積の中であれだけの豊かな空間が実現されたことに驚いた。大胆であり、細かくもある意匠を実際に身体で体験できて面白かった。図面を見ることができるのも○

評価A ●新しい時代の生活スタイルを最小限の空間で表現した名作。

評価A ●ここでも企画者の立場の解説があることが効いていました。空間の質の高さを改めて確認しました。

評価一 ●（私では評価できません）



特別展「ル・コルビュジェと前川國男」展示会場



江戸東京たてもの園に移築された前川國男自邸

2-1 ◆武蔵小金井駅南口再開発

評価:4.11 内訳:AAAAABBBB

評価A ●駅前広場と複合施設による一般的な再開発だが、非常に不便で危険だった南口交通環境が改善という積年の願いが実現しただけでなく、駅前正面にホールという文化施設を導入した点や、奥に建物に囲まれた歩行者広場を設けている点など素晴らしい。

評価A ●広場（駅広とは別の）で面白い空間が実現されているのが興味深かった。駅前から奥まで生活道路に開けている広場へ、建物の隙間からアプローチしていく配置計画は意図したもの？

評価A ●交通広場とは別に広場空間がつくれ、意外性があって良いと思います。

評価A ●大きな木を残し、新しい施設で囲まれた広場空間がいい。

評価A ●武蔵小金井駅周辺の土地柄や動向を知ることができました。

評価B●第一地区の再開発によって駅前広場ができ、中央線高架化と駅の改修で駅前空間は大きく変化した。

さらに第二地区でも再開発が進行しており、全体ができて街がどうなるか楽しみ。

評価B●自動車交通を処理する駅前広場だけでなく、自動車の入れない多目的に使える広場が、3棟の建物の適当な配置によって造られている点が良い。

評価B●空地は快適でした。発見がありました。

評価B●商業、公益施設が面する広場を確保できたことは計画レベルでの成功。しかし周りの建物からしみ出すようなディテールが欲しかった。



武蔵小金井駅南口再開発の駅前広場とホール



武蔵小金井駅南口再開発による歩行者広場

2-2◆東小金井～武蔵境の高架下利用（NONOWAプロジェクト） 評価:3.67 内訳:AABBBB---

評価A●高架下の利用事例は、関心はありつつもあまり知らなかったため、良い事例を知れて良かったです。

貴重なパブリックスペースの一つだと思うので、今後の動向も気にしていきたいと思います。

評価A●高架下というあまり良いイメージではなかったが、街に欠けていたものがうまく展開していた。

評価B●高架下空間を新しいアイデアで積極的に使いこなそうという姿勢に好感が持てる。単なる駐車場や資材置き場でなく、仮設的な小さな建物でできることを追求しており、結果が興味深い。駅から駅への新たなストリートを形成するという視点で、東京都や小金井市も積極活用すると面白いのだが。

評価B●駅間ほとんどを活用しようとしているのは立派。特に「ののみちヒガコ東」は店舗と半屋外空間の組合せが上手い。

評価B●高架下は幅が狭いのにも長大な距離であるため、とかく場当たりのな使われ方になってしまう。それに対してNONOWAプロジェクトについては、高架下を一連のものとして人が集う空間として計画していることが評価できる。極力安く仕上がるように造られているが、貧相な印象ではなく、アイデアやデザインが面白かった。

評価B●駅前・エキナカの大規模再開発に留まらず、（繁華街にあるような）従来の高架下利用とは違った豊かな空間が作られつつある真っ最中という感じを目の当たりにして、面白かった。非常に小さな貸店舗や貸事務所があり、どのように変わっていくか楽しみ。賃料設定やマネジメントの手法も気になる。



東小金井エキナカ高架下事業(NONOWAプロジェクト)



東小金井駅付近をシェアサイクル(suicide)で行く

2-3◆武蔵野プレイス（武蔵野市複合公共施設）

評価:4.67 内訳:AAAAAB---

評価A●駅前公園に面する立地条件、図書館を核とした多種機能の複合、有機的なつながりがある居心地の良い内部空間など、理想的な公共市民施設を実現している。ただ、あの建物デザインは不可思議。

評価A●良い建物、良いユーザー、どちらが先かわからないけれど、絵に描いたような空間と使われる様子がまぶしかった。

評価A●内部の上下左右空間のつながり具合が豊かだった。それでいて、たくさんの丸みのある空間で室内を緩く区切っているため、落ち着きもあってとても良かった。加えて、びっくりするくらい多くの人々が心地良さそうに利用していることに、武蔵野市の先進的な施設運営がとても優れていると感じた。

評価A●利用者目線の設計で、武蔵野プレイスでの使い方が上手く提示できているなど非常に感心しました。施設単体ではなく、都市・地域を意識した公共施設となっていてまちづくりやコミュニティの視点からも勉強になる事例でした。壁も角ではなく全体的に丸みのある建物でした。

評価A●サービス面でも施設としても、あのように大胆な公共施設が実現できる武蔵野市の先進性を感じた。

駅直結の芝生の公園は珍しいし、繁華街の中にあるあのスケール感も程良い感じだと思った。

評価B●デザインはあまり好きではないが、機能としては良く出来ている。特にB2階のティーンズスタジオは子供たちにとっては面白そう。



武蔵野市内の高架下を利用した鉄道記念公園



武蔵境駅前の公園に面する武蔵野プレイス

5◆今回歩いた場所のうち、特に印象に残ったところ

スタジオジブリと周辺★スタジオジブリの建物と、周辺の関連する建物や庭がとても良い雰囲気

スタジオジブリと周辺★あの回りだけ武蔵野の面影（まさにトトロの風景）があって面白かった。

スタジオジブリの建築群★ジブリの建築（事務所、会議室兼休憩所、保育所かな）が既存の住宅＋農地に点在して、アニメにでてくるような境界になっている。これがヒントになって周辺の旧緑地帯の住宅地が開いていくと面白いことになりそう。ただジブリ自体が雲行き怪しく、それぞれの建物はちゃんと使われているの？と心配にもなる。

小金井公園★東京の市街地でこれだけ豊かな緑があることは本当に素晴らしい。

小金井公園★見渡す限りの平坦な緑の空間が広がっている。利用者も少なく(?)伸び伸びできる。

小金井公園（江戸東京たてもの園を含む）★

江戸東京たてもの園★以前よりも建物が増え、格段に充実している。

前川國男自邸★

小金井街道の街並み★武蔵小金井駅北側のバス通り（小金井街道）の両側は連続的に高層マンション並んでおり、低層部には店舗も入って賑わいもあり、都市的な街路景観を形成している。こういうのは好きだ！

武蔵小金井駅南口再開発★40年前からのバスが駅前に入れず5分歩いて乗るという不便さがようやく解消した。駅前に文化施設もでき、長期的な都市計画の偉大さを実感した。ただ、やはり遅すぎるか。

武蔵小金井駅南口再開発★

武蔵小金井駅南口再開発★

高架下エキソト開発★いかにもJR主導の小金井市域、市がリードしたんだと感じる武蔵野市域と違いが面白い。チャレンジゾーンの屋内面積を押さえながら屋外を巻き込むデザインや、公園や医療施設、駐輪場など街に欠けていたものをうまく取り込んだ様など、高架下の余白スペースの可能性を感じた。

高架下の小規模利用★毎日上を通り過ぎているだけで、真下にあのような場所があるのは知らなかった。

シェアサイクル★便利だけど、手続きがやや面倒。記名式交通ＩＣカードでそのままタッチでＯＫにすべき。
 シェアサイクル★稼働の程度が不明だが、市民が街中で乗車しているのを見かけ、利用が浸透している気配。
 武蔵野プレイス★初めて見たときはリノベーション建築と思いました。あれが新築とは・・・
 武蔵野プレイス★行政と住民を繋ぐ良い事例だと思いました。
 武蔵野プレイス★武蔵野市っぽく、先進的でカッコよかった。
 武蔵野プレイス★いやあまあ、理想ですね。



樹木の多い住宅地にスタジオジブリ関連の建物が点在



小金井街道に沿ったマンション群が都市的景観を構成

4 ■前川國男展を見て、前川の建築作品と戦後日本社会の発展との関係をどう感じましたか？

また、当時とは社会状況が大きく異なる現在の日本における前川建築の意義は何でしょうか？

- 晴海高層アパートは非常によくできているが、公団住宅の初期の水準からみると進みすぎていたので、後が続かなかったのだと思う。本物の建築は社会状況が変化しても、その変化に対応できる力を持っている。現在でも活用されている前川建築は本物だということであり、今後も都市の一部として生き続けるのだと思う。
- 社会状況の変動があったとしても、例えば二つの音楽ホール（上野、紅葉坂）を見るならば、質の高さからかけがえがなく（音響一つとってみても）、文化的貢献度の高さは変わらないでしょう。
- 前川國男は、戦後民主主義や市民社会との関係性で語られることが多い印象がありましたが、それはそれとして、「前川國男が創ろうとした建物や空間」の普遍性を漠然と感じました。
- 近年の建築とは当然異なるがゆえにレジェンドの存在だと思います。
- 戦後の合理主義の時代の中でモダニズム建築の一側面ばかりが主役となってきてしまった一方、そのおかげで現在の安全で衛生的な都市・建築空間が成立できたのだと思う。技術も発展し、量より質の時代に入っただけに前川國男たち先人が思い描いていたモダニズムと向き合うことができるのではないかと感じた。
- 伊東豊雄による前川の追悼文「公共建築の死」はまさにそうだと思います。共有の財産として時間と空間とコストをかけて作らなければいけないものが、なかなかそうはいかない現実。
- 当時の建築は普遍的価値の実現を目指しており、それが社会の進歩や明日への希望につながっていた（幸福な時代）。今や建築も社会も普遍的価値を目指さずに、進むべき方向を見失っている（混迷の時代）。もう一度、水平な関係性による相対力学から、垂直な卓越性を希求する絶対志向へと転換すべきではないか。

5 ■鉄道高架下の利用方法として、いいと思う事例やアイデアなどがあれば挙げてください。

- 事例としては御徒町の「2k540」なども良く出来ているが、やはり有楽町ガード下が一番魅力的。利用方法はいろいろあるが、歩行者にとっては雨に濡れない通路の確保は重要。
- 1990年頃の「ギャレ大阪」、「カサレス住道」は、高架下空間の殺伐とした猥雑さを逆手にとって秀逸。
- 横浜黄金町の事例（街の浄化のため、アート拠点の導入など）。
- まちなか広場。おしゃれなオープンカフェ。テナントや機能・サービスを柔軟に変えられる商店街など。
- 駅近くに始発から終電まで営業しているクリーニング店があると非常に便利なのが。
- ①京急線弘明寺駅近くの「みうら湯」ほどではないが、ちょっとした入浴施設でもあると駅利用者等はうれしいと思う。②店舗の密集も良いが、隣駅まで続く緑道やアスレチックコースを整備し所々に店舗や休憩所なんかが設けられれば面白そう。③今回の様に、Suica を使って小金井公園などの名所を巡るサイクリングコースの設定→出発・帰着時に高架下店舗利用の機会が増える可能性。④都心に出るほどでないスモールオフィス（既にあった）・シェアオフィスの供給。

6 ■小金井の街を巡り、どのような印象を持ちましたか？ そして小金井の街は将来どのような姿をめざし、そのためにはどのようなまちづくりをしたらいいと思いますか？

- 典型的な東京郊外の住宅都市というイメージ。学生時代の印象に比べると、緑の小金井公園が充実し、武蔵小金井再開発で街の顔ができた。郊外生活も都市生活も楽しめる居住地（大学も複数あって文化性も高い）になりつつある。今後は大規模敷地での高層開発を抑制し、歩行者と自転車を重視した道路計画にすべき。
- 武蔵小金井駅前には別にして、首都圏の緑地帯に住宅地に点在する新しい個人店舗が目についた。ジブリ村のように、職住が近所に散りばめられた都市近郊の田園居住ができるといいのですが。子供の頃に住んでいた町ですが、昔の小さな店などすっかりなくなり新しい店ができて、同じ住民が代替わりして継続していくのではなく、新しい世代が入ってきて店を開いているところが、歴史の継続、蓄積がなく、なんとなく寂しくもあり。
- 住宅が密集したベッドタウンのイメージだったが、東小金井駅北口周辺に低密度な土地が多く残っているのがとても意外だった。小金井も、近い将来人口減少を避けられない状況と思うし、隣接する三鷹市や武蔵野市程の求心力が無い中で、新しい形の郊外ベッドタウンとしての姿があるのではないかと。例えば、高架下の利用で、都心に近い職住近接の街というのもアリなのではないかと思う。また、少し地味とは言え人気のある中央線沿線の街ではあるので、高架下にチェーン店よりも小金井でしか体験できない or 買えないサービスや物を提供する店舗が増えれば、さらに街としての魅力的が増すと思う。
- 小金井公園周辺がシンボリック存在に関わらず、周辺住民の利用者が多い印象を受けたので、駅から小金井公園までの繋げ方をもう少し意識して、ターゲットをもっと広げて良いのではと思いました。
- 小金井公園などの緑が多く住宅地としては良いが、都心らしい街がなく都市のイメージは希薄。今回見ただけでは目指すべき将来像もわかりにくいので、まずは市民が街の将来像を共有することが必要か。

7 ■今回の企画全般に対する感想など

- 江戸東京たてもの園は駅から遠いので自転車移動となったが、広域に街を見ることができたので非常に良かった。Suicleは借りた駅以外の駅で返せるなど使い勝手の良いシステムで、高架下利用も含めてJRが街にかかわり始めたことが印象的だった。(k/t)
- 江戸東京たてもの園と中央線高架化に伴う事業を、シェアサイクル利用で結ぶ（見学する）企画でした。企画・事業に携わった方の解説があると面白さの度合いが高くなりますね。ありがとうございました。(o/m)
- 前川作品は学生時代から好きでしたが、今回あらためて「奥の深さ」を感じました。戦後日本社会が大きく変わってきている中だからこそ、見えてくる前川國男像があると思います。（今、言葉にしてみるととても薄っぺらなものになりそうなので、しばらく考えていきたいと思います）(s/m)
- 今回は、高架下の新しく造られた道路を走り、小金井市から武蔵野市に入った途端、街の雰囲気が大きく変わったことに一番驚いた。小金井市内は、まあ一般的な東京都内多摩地区の自治体の雰囲気、新しく造られた道路でありながら、高架下を含めて沿道一体をどうしていこうという意思が感じられなかった。それに対し、武蔵野市内は、道路の舗装や照明、沿道の雰囲気も良く、随分と差を感じた。このような違いは、行政や民間のどのような働きかけの違いによって生ずるのだろうか。(s/t)
- 解説する方だけでなく次々に皆さんの知識やコメントがあったので、まちづくりに関心はあるが素人の私からすると、とても楽しくまちを学ぶことができる機会となりました。今後ともよろしくお願いします。(o/h)
- 自転車で回るのは、時間・距離的に今回の企画に最適だったと思います。(n/h)



●暑くて大変でしたが、雨も降らず天候にも恵まれ、Suicleを実体験しながらの面白い企画でした。自転車移動だと、街の見方が変わりますね。(s/y)

●企画呼びかけ人からひとこと

志岐さん企画の前川國男展を見に行こう！というのがきっかけでしたが、江戸東京たてもの園全体も見たい、武蔵小金井の再開発も、いや東小金井のエキソトの方が面白い、さらには高架下利用プロジェクトを歩いて、学会賞の武蔵野プレイスまで、と企画が加速度的に膨張し、破裂寸前でした。真夏の猛暑の中、それを救ったのは、シェアサイクル利用という方法です。志岐さん、ご案内ご説明をありがとうございました。皆さん、大変お疲れ様でした。(o/r)